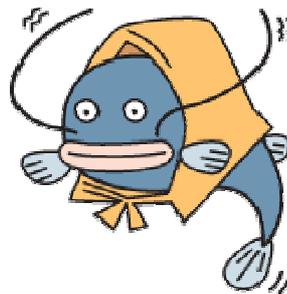


# 緊急地震速報 なまずきん



マンスリー レポート  
2009年 3月号

発行元 株式会社 ハレックス

## 「震度速報」をより早く発表 ～ 気象庁が5月中旬を目途に計画 ～

3月12日、気象庁は、第2回「緊急地震速報評価・改善検討会」を開催しましたが、この中で、「震度速報」をより早く発表するよう、計画していることがわかりました。

「震度速報」とは、地震発生約2分後、震度3以上の全国約180に区分した地域名と地震の発生時刻を知らせる情報で、テレビなどメディアを通じて広く一般に伝達されているものです（下左図：地震発生直後に最初に発表される情報）。

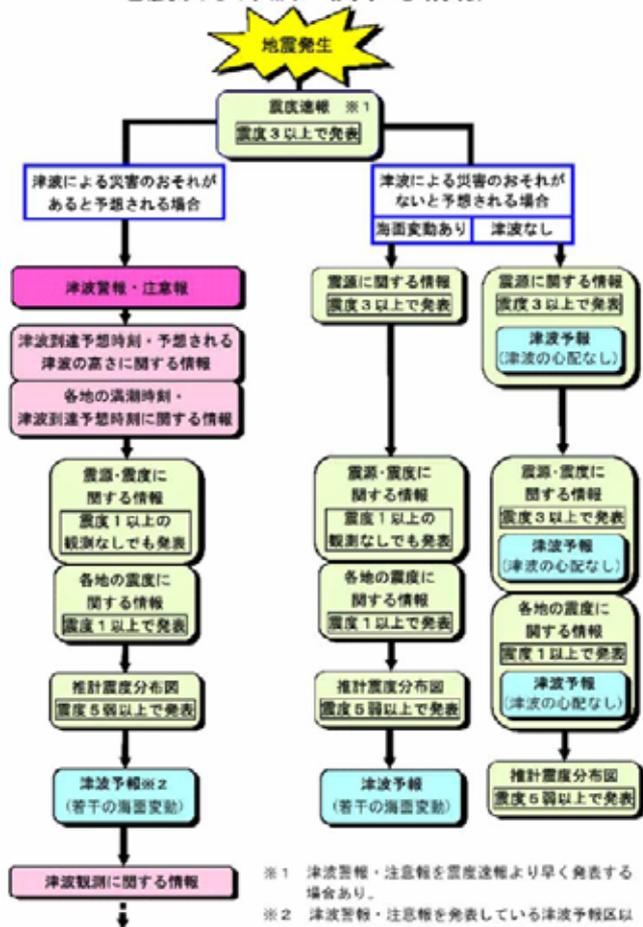
現在、地震の揺れに関する情報の一般的な流れとしては、緊急地震速報が地震発生から数秒から数十秒程度で発表され、その後、震度速報の出る2分経過までにはやや時間があります。

気象庁では、震度観測データを分析した結果、現在地震発生から2分を出している当該情報をおおむね1分から1分30秒程度で出せることを確認しました。

下右図は、「新潟県中越地震」、「岩手宮城内陸地震」、「福島県沖の地震」、「十勝沖の地震」、「茨城県沖の地震」の5つの地震の際、全国の気象庁観測点からの「ケイソク報」（震度に関する情報）が、地震発生から何秒後に気象庁へ伝えられたかを示すもので、震度4（計測震度では3.5）以上のデータは、概ね経過時間1分30秒までに入電していることがわかります。

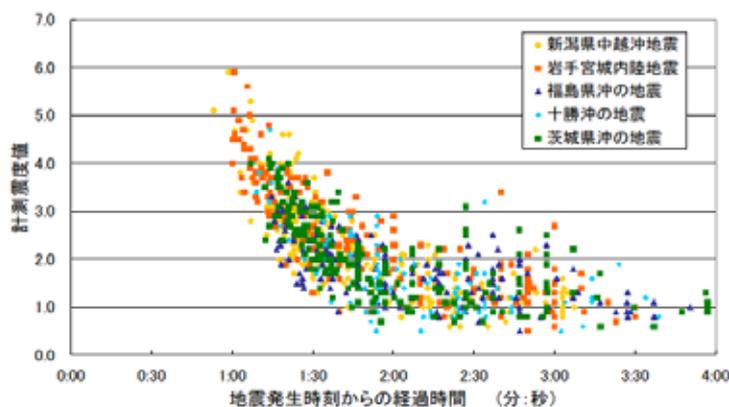
これにより気象庁は、5月中旬を目途に、震度速報をより早い時間内に発表することとしています。

### 地震及び津波に関する情報



※1 津波警報・注意報を震度速報より早く発表する場合あり。  
※2 津波警報・注意報を発表している津波予報区以外で、海面変動が予想される津波予報区に発表する。

気象庁観測点のケイソク報の入電状況



# なまずきんの働き (2009年2月)

## 【発信数概要】

緊急地震速報(予報)が38個の地震に対し発信され、総数は222通でした。平成18年8月に先行運用が始まってからの月平均データと比較

しますと、地震数、発信数とも約70%と少なめの月でした。

また、推定震度4以上と報じた地震数は6個で、平均数(6.8個)とほぼ同数でした。

震度4以上を発信または観測した地震(2009年2月)

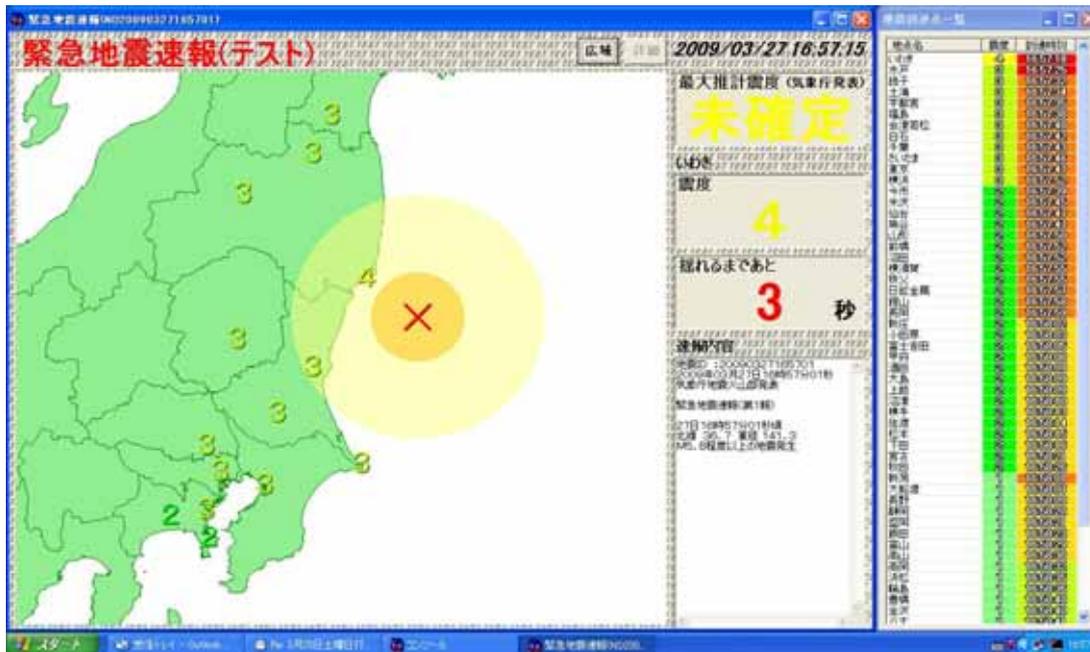
日	時分	地域名	深さ(km)	マグニチュード	速報発信数	速報最大震度(最終報震度)	観測最大震度(地点数)
01	06:52	茨城県沖	47	M5.8	9	4(4)	4(5)
15	18:24	岩手県沖	36	M5.9	11	4(4)	4(1)
17	04:54	千葉県南部	31	M4.6	9	4(3)	4(2)
17	09:13	福島県沖	48	M4.9	8	3(3)	4(2)
18	06:47	岐阜県美濃中西部	9	M5.2	8	4(4)	4(3)
24	11:52	新潟県中越地方	11	M3.4	10	4(4)	4(1)
28	09:36	日高支庁西部	113	M5.2	9	4(3)	4(3)

## 【茨城県沖の地震】

1日06時52分、茨城県と福島県境の沖合いいわき市の東南東約50キロ沖合いにマグニチュード5.8の地震が発生し、福島県の二本松市、田村市都路町、葛尾村、南相馬市、茨城県の銚田市で

最大震度4を観測しました。

高度利用者向け緊急地震速報の第1報は、地震発生後の約15秒後に発表され、主要動が福島県南部沿岸に達するまでには3秒程度の余裕がありました。



高度利用者向け緊急地震速報の第1報が発表された時点でのP波、S波の伝播状況を示す“なまずきん”の画面。×印が震央で、外側の円がP波、内側の円がS波の拡がりを現わしており、S波がいわき市に到達するまで3秒であることを示しています。

緊急地震速報で最大震度が3と推定された地震(2009年2月)

日	時分	地域名	深さ(km)	マグニチュード	日	時分	地域名	深さ(km)	マグニチュード
11	19:07	福島県沖	51	M4.1	22	23:24	十勝沖	34	M5.4
20	18:17	茨城県南部	64	M4.4	28	02:30	茨城県北部	55	M4.2
21	09:13	奄美大島北東沖	73	M5.2					